【福井県永平寺町】スマートシティモデル事業企画提案書（概要版）

●永平寺町（対象区域）の概要

- 人口　　19,883人（2015年）
- 高齢化率　27.5%（同）
- 北陸自動車道と中部縦貫自動車道の結節点
- 大本山永平寺をはじめ多くの歴史文化資源
- 年間観光入込数　114万人（2017年）

●永平寺町が抱える課題

- 2040年の町の人口は15,241人、高齢化率は36.1%と見込まれ、今後一層の人口減少と高齢化が進行。
- 財政の逼迫が予想される中、人材不足を補いつつ、町民の暮らしやすさの向上と町独自の産業・観光の振興から地域全体の活性化への好循環を生む工夫が必要。

分　野	課　題
行政効率化	・複雑かつ多様化している住民ニーズへの対応
防災	・ワンストップで情報入手が可能なシステム・ツールと、使いこなせる仕組みづくり
医療・福祉	・医療・介護・生活支援サービスを支える人材育成と、インフォーマルサービスの創出
交通・モビリティ	・町でこれまで取り組んできた自動走行実用化の実証実験や、MaaS構築に向け業種を超えて関係者が議論する会議（永平寺町MaaS会議）等を踏まえ、新たな交通サービス実装
観光・地域活性化	・大本山永平寺訪れる参拝客はピーク時の3分の1程度

永平寺町のまちづくりのビジョン

IoT技術による生活・産業・観光の持続的向上

【生活】　子育て世代、高齢者等に対し利便性の高いモビリティの確保に向けた交通基盤の整備や、人・自然等関連データの取得及び既存データの活用による生活行動の最適化、災害時の安全確保に向けた対策や情報提供

【産業】　IoT推進拠点を核とした新たな産業の誘致、インフラの一元管理と再エネ導入等の持続可能な自治体経営に向けた産業の振興

【観光】　データ活用による永平寺門前のまちなみ整備をはじめとする観光まちづくりのさらなる展開

スマートシティモデル事業では、
【生活】【産業】に重点を置いた取組を提案

永平寺町スマートシティモデル事業の取組構想
IoT技術活用による生活の安全性・快適性、生活利便性、産業振興の持続的向上

実施中・構想中の個別施策

IoTで統合・発展

生活の安全性・快適性
- 町民向け情報発信インターフェース導入
- 災害対応システム
- 在宅療養支援

生活利便性
- 地域生活交通ネットワーク、人流データの活用
- 子育て世代や高齢者等に使い勝手のよい足の確保（MaaS）

産業振興（IoT・インフラ・エネルギー）
- サテライトオフィス、ビジネスマッチング
- インフラの遠隔管理システム導入

取組方針2 新サービス創出

生活に役立つ情報入手 ⇔ 生活行動最適化提案　／　災害時情報 ⇔ 人流データ ⇔ 高齢者等交通弱者支援　／　データ活用新産業創出　／　インフラ一元管理

取組方針1 情報基盤整備

情報収集端末等導入：簡易水位計や積雪深計、Webカメラ等のセンサーやIT端末による人流把握

＋

プラットフォーム構築：オープンデータ WebGIS（eコミマップ）／危機管理クラウド

取組方針2 IoT推進拠点・人材育成

◆システムの構築・運用を支える人材(雇用)確保　⇔（相乗効果）⇔　◆データ活用・分析と、官民連携による行政業務の効率化

【福井県永平寺町】スマートシティモデル事業企画提案書（概要版）

●取組施策の全体と、スマートシティモデル事業での実施内容

国土交通省スマートシティモデル事業対象

情報プラットフォーム･インターフェースの構築

※ 本提案に基づく検討を踏まえ次年度以降、総務省等関連機関の支援を得て事業実施を想定

町民向けインターフェースの開発

情報プラットフォームの開発（eコミマップ、危機管理クラウド）

今後検討する取組
例） 農業振興、5G、エネルギー

窓口業務及びインフラ監視業務の効率化

センサ設置

ワンストップ災害対応システムの構築

生活流動データの把握と活用
- 人的流動把握と活用

データ活用等によるビジネス創出
- システム運用体制
- データ活用による新サービス･新ビジネスの開拓

	窓口業務及びインフラ監視業務の効率化	ワンストップ災害対応システムの構築	生活流動データの把握と活用	データ活用等によるビジネス創出
2019年度スマートシティモデル事業での検討事項	• ワークフロー分析 • 分析結果を踏まえた業務効率化システムの概略設計 • 監視システムの概略設計及びセンサ設置位置や観測データ内容等検討	• システムの概略設計（どのデータを収集活用し、誰に･どのように発信するかなど、考え方の部分を検討）	• 人的流動データの収集･活用方法の検討（活用案：防災や生活MaaS、医療福祉等へのデータ活用方法を検討）	• IoT推進センター（仮称）等を主体としたシステム運用体制･技術移転、人材確保･育成に係る具体計画 • 収集するデータの活用による新たなサービスメニュー、新ビジネスの企画開発
次年度以降の展開	• システムの詳細設計、導入 • センサ等設置	• システムの詳細設計、導入	• 高齢者等交通弱者支援のための交通対策（コミュニティバス運行見直し等）	• 上記の実行

●データ利活用方針

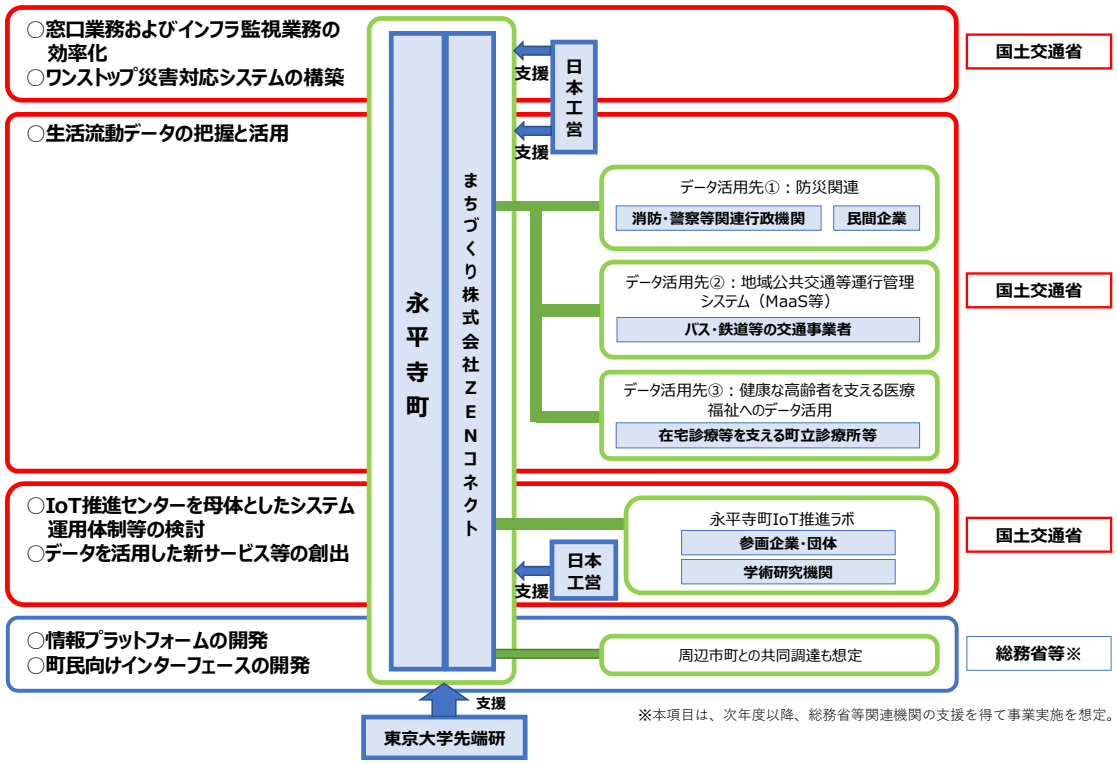
- プラットフォームは、防災科研の「eコミマップ」及び「官民協働危機管理クラウドシステム（SIP4D利活用システム）を活用し整備。
- センサ情報を取り込むためのデータ管理基盤は、FIWAREを活用した連携方法を検討。

分野別のデータ収集項目及び収集方法 ▶

分野	収集項目	収集方法
窓口業務・インフラ監視効率化	・行政事務処理状況 ・Webカメラ映像、スマートフォン登録情報	・庁内LAN ・インターネット、携帯電話網
ワンストップ災害対応	・雨量、水位、積雪深、被災・復旧状況、避難所状況、等 ・SIP4D提供データ（※1）	・センサに応じて携帯電話網(3G～5G)、LPWA等により収集 ・SIP4Dはインターネット経由で接続
生活流動データ	・駐車場、人流データ	・インターネット、携帯電話網

【福井県永平寺町】スマートシティモデル事業企画提案書（概要版）

●事業実施体制、実施主体の役割分担



※本項目は、次年度以降、総務省等関連機関の支援を得て事業実施を想定。

●分野別内容（案）

項目		概要	事業
生活安全性・快適性	窓口業務およびインフラ監視業務の効率化	ワークフロー分析、センサ配置検討・設置・活用	国交省
	ワンストップ災害対応システムの構築	システム要件の検討等	国交省
生活利便性	生活流動データの把握と活用	データ把握・活用方法の検討	国交省
産業振興	システム運用体制等の検討	運用体制等検討	国交省
	データを活用した新サービス等の創出	新サービス等検討	国交省
情報基盤の整備	情報プラットフォームの開発	プラットフォーム検討・設計・構築	総務省
	町民向けインターフェースの開発	ポータルサイト、CATV活用システム、デジタルサイネージ、AR	総務省

●成果検証

【個別取組の進捗管理のためのKPI（重要業績指標）】

取組		KPI
生活安全性・快適性	窓口業務およびインフラ監視業務の効率化	・窓口業務の電子化率 ・インフラのモニタリング割合
	ワンストップ災害対応システムの構築	・システムアクセス数（平常時、災害時）
生活利便性	生活流動データの把握と活用	・高齢者の外出率
産業振興	システム運用体制等の検討	・システム運用のための雇用者数
	データを活用した新サービス等の創出	・サテライトオフィス稼働率 ・IoT関連の起業数
情報基盤の整備	情報プラットフォームの開発	・プラットフォームおよびインターフェースの開発進捗率
	町民向けインターフェースの開発	

【スマートシティの取組全体の成果を評価する指標】

1）「生活」に関する指標

IT普及率：IoTまちづくりの基盤として、スマートフォン等のITデバイスの普及を目指す。

健康寿命、定住人口：医療・交通・防災等の生活面の課題解決により、人口と健康の向上を目指す。

2）「産業」に関する指標

IoT関連企業の売上および従業者数：IoT関連の産業を創出し、雇用や売上の確保を目指す。

●今後の展開

- 今後一層の人口減少と高齢化が進行する小規模自治体で、IoT技術を活用し地域課題解決を図る取組を「永平寺町モデル」として確立する。
- 永平寺町が事務局を務める庁内業務効率化に関する勉強会（県内10市町が参加）等を通し、過疎地域におけるスマートシティ構築のノウハウ蓄積と展開を図る。
- さらに、コンソーシアム参加者の日本工営（株）の全国ネットワークを活用し、全国展開を図る。